

理科（生物）

報告者：外山 秋沙

1 課題

生物の学習における読解力とは、科学的な文章を読み取る力、表やグラフを読み取る力、自分の考えを記述したり説明したりする力であると捉えた。本校生徒は生物の学習に意欲的である。しかし、教科書の文章を読み取って内容を整理し、自分の考えを言語化することが苦手な生徒が多く、一部の生徒は文章を読み取るための重要語句の習得が十分でない。そこで（１）重要語句の習得（２）文章の読み取り（３）自分の考えの説明の３点を読解力の課題として設定した。

2 目標

- （１）重要語句の意味を正確に捉えさせる。
- （２）必要な情報を探し、情報を組立てて考えさせる。
- （３）自分の考えを言葉にして表現させる。

3 具体的方策

- （１）生徒に教科書を読ませ、ワークシートの空欄に適語（単元の重要語句）を記入させる。重要語句を取り出して記入させることで、生徒にその単語への注意を向けさせる。ワークシートの構成を工夫し、意味を理解しなければ適語を記入できないように仕向ける。
- （２）生徒に単元の内容を題材にした課題に取り組みせ、ワークシートに答えを記入させる。課題は、教科書の内容や、自分の経験を関連づけて考える内容とする。
- （３）生徒を４人班に分け、（１）と（２）でワークシートに記入した内容を、生徒に互いに説明させる。グループワークを通して、一斉講義よりも多くの生徒が発言できるように仕向ける。極力教員が説明する時間を減らし、生徒の能動的な取り組みを引き出す。

4 結果

課題に取り組む生徒が、単元の重要語句を使って考える姿が見られ、重要語句を覚えるだけでなく使う機会を作ることができた。多くの班が、教員の助言をほぼ受けずに課題の答えを導くことができた。生徒同士で教え合う姿がどのクラスでも見られ、生徒が自分の考えを言語化する機会を作ることができた。ただし、考査の結果では従来の授業との明確な差はなかった。

5 次年度に向けての課題

積極的に授業中の学習活動に取り組んでいたにも関わらず、考査の得点が低い生徒が一部みられた。教員が生徒の理解度を正確に把握するとともに、考査で知識だけを問うのではなく、生徒が授業で身に付けた読解力を活用できるような作問を工夫することが考えられる。また、グループワークに苦手意識を持つ生徒も安心して学べる学習活動を工夫したい。他教科と、読解力の捉え方や具体的方策を共有することで、さらに効果的な指導が期待される。